

プラスエンジニアリング（東京都豊島区、鈴木重人社長）が、新入社員を職業能力開発大学校に就学させ、製造現場の即戦力に育成している。今春、1期生が卒業し、早速、工場の肝となる研削工程に着任した。会社が学費や生活費を全額負担している点も好評で、採用にも良い効果が出ている。

（東北・北海道総局長・大橋修）

1期生は2021年4月入社で、仙台事業所（宮城県村田町）に配属された菅原頌太さん（21）。2年目の22年4月に東北職業能力開発大学校（同県栗原市）専門課程（2年

職能大就学、新人を即戦力に



プラスエンジニアリング 学費・生活費全額負担

制に入学。生産技術た。最初は不安だった作業。入社4年目の社員に任せるのは初めて「機械加工の基礎が、行つて良かった」とその成長ぶりに（コンピューター利用うだ。驚く。

設計・製造）など専門卒業後すぐ復職し、菅原さんも「入社1年目は何をにつくつてい加工を扱う工のから分かなな程で平面研削った。2年学び戻つて盤などを扱きて作業してみたら、う。事業所長 実際はこうなっていたの浅野謙一郎のかとよく理解でき取締役は「研た」と勉学の成果を誇削は仕上げにる。

近く、やり直 在学中は自宅から通しができない えないため、会社がア研削盤を操作する菅原さん。東北職能大では機械系学費などを全額まかなモノづくり競った。ただ、補助金が出るため会社側の支出は年間数十万円で済む成績を取めた

新卒採用好転、大きな成果

だという。こうした就学支援が評判を呼び「この数年は新卒採用でも大きなインパクトがあった」（浅野取締役）。工場ではそれまで年1人採れるかどうかだった採用状況が好転。23年4月は新卒で3人が入社。うち2人が2期生としてこの春、東北職能大に進学した。「2年後に卒業したら同様に研削工程に従事してもらいたい」（同）と期待する。この春も新卒で3人が入社し、うち2人を進学させる予定。その後も、人材育成の重要施策として継続する意向だ。